

第5学年4組 社会科学学習指導案

5年4組教室 指導者 木下 淑恵

1 単元名 広めよう！西尾の抹茶 （わたしたちの生活と工業生産）

2 単元の目標

- (1) 西尾の抹茶に関心をもち、西尾の抹茶を広めるために、意欲的に調べたり、提案したりしようとする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 株式会社「あいや」を見学したり調べたりしたことをもとに、「あいや」が成長して秘密を考える。 【思考・判断・表現】
- (3) 株式会社「あいや」が成長していった秘密を探るために、工場見学や各種パンフレット、インターネットなどの読み取りを通して、必要な情報を集める。 【資料活用】
- (4) 「あいや」が取り組んでいる品質が高く、お客さんのニーズに合わせた商品を作るための努力や販売の工夫について理解する。 【知識・理解】

3 単元の構想

本学級の子どもたちは、疑問に思ったことを意欲的に調べたり、話し合ったりすることが好きである。前単元「沖縄県のくらしを調べよう」では、沖縄の家の写真から気づいたことを発表し、その中で疑問に思ったことを教科書や様々な資料を使って調べ、発表することができた。しかし、子どもたちにとって沖縄県のくらしは実感がなく、切実感をもって話し合うには至らなかった。子どもたちには自分で何とかしたいという強い思いをもち、自分の考えを発信する力を伸ばしてほしいと願う。

本単元は、地元西尾市の抹茶を教材にする。西尾市の抹茶作りは730余年もの歴史がある。市北西部の矢作川左岸にある稲荷山茶園は、総面積が約150ヘクタールにも及び、最近まで市別の碾茶生産量が全国1位である。本校では、2年前から校区にある茶園で茶摘みを行い、抹茶をたててお茶を飲む体験をしている。本学級の子どもたちは西尾市の自慢は抹茶と考えており、給食に出される抹茶トーストを楽しみにしているなど、抹茶を身近に感じている。しかし、近年の抹茶ブームによる他県との競争激化により、全国1位の座を譲ることになったという事実は、子どもたちにとって衝撃であり、何とかしたいという切実感をもたせ、行動へと突き動かすことができると考える。

そこで、導入では西尾の抹茶のおかれている現状に関心をもたせるために、抹茶の使われている商品を集めたり、実際に味わったりする。その過程において、「宇治抹茶」と書かれている商品や抹茶の産地が書かれていない商品の多さに気づき、西尾の抹茶の知名度に疑問をもつだろう。深化では、西尾の抹茶の現状について調べていく。20年前までは全国のシェアの70%を占めていた西尾産の碾茶が、今は20%程度に落ち込んでしまったという事実は、子どもたちにとって予想外の現状であり、強い問題意識を生むだろう。そして、切実感をもって西尾の抹茶を守っていく方法はないのかと考え、動き出そうとするだろう。そこで、西尾一の抹茶の売り上げを誇り、アメリカ、ドイツ、中国を拠点に、世界中に「MATCHA」を広げている「株式会社あいや」（以下「あいや」）を取り上げる。伝統を大切にしながらもお客さんのニーズに合った商品を開発したり、抹茶の新しい販路を開拓したりして会社を成長させている「あいや」の企業努力を学ぶことは、西尾の抹茶を世に広めるアイディアの手がかりになるだろう。活用では、自分たちの自慢である西尾の抹茶をもっと世に広めていくためにはどうしたらよいかを考える。その中で、ポスターやパンフレットを作り、自分たちの考えを西尾市青年会議所の人に提案する活動を取り入れ、自分たちが西尾の抹茶を広めることに少しでも貢献できたと実感させたい。

本単元を通して、西尾の抹茶を作る人々やそれを広めていこうとする人々の思いに触れ、西尾の抹茶を自分たちが何とかしたいという思いをもって、よりよいアイディアを考え発信していく姿を願う。

4 指導計画（12時間完了）

僕たちの自慢の西尾の抹茶はどのくらい知られているのかな

身の回りにある抹茶商品を探して、西尾の抹茶を味わおう②

導
入

○抹茶が使われている商品を集めて、食べたり、飲んだりしよう。②

- ・抹茶が使われている商品ってたくさんあるんだね。
- ・「西尾の抹茶使用」っていう商品もあったけど、どこの抹茶か書いてない商品や「宇治抹茶」っていう商品がたくさんあったよ。
- ・抹茶を使ったお菓子はたくさんあるけど、抹茶をたてて飲むことはほとんどないね。

西尾の抹茶って、どれくらい知られているんだろう。

西尾の抹茶の現状をつかみ、お茶屋さんの秘密を調べよう⑦

○西尾の抹茶の現状をつかもう

(1) 資料やインターネットを使って調べよう②

- ・手摘みで収穫するところが他の生産地とちがうところだね。
- ・鹿児島県や三重県、静岡県でもお茶の栽培が盛んなんだね。
- ・最近、碾茶の生産量は1位じゃなくなってしまったんだね。

(2) 茶業組合の話を聞いてみよう①

- ・他の県も抹茶を育て始めたから競争が厳しくなっているんだね。
- ・西尾は手摘みの抹茶だから味が濃いんだって。
- ・西尾の抹茶は生き残っていけるのかなあ。お茶屋さんは、どんな工夫をしているんだろう。

○西尾一の売り上げを誇る「あいや」の工夫を見つけよう。

(1) 工場見学へ行こう①

- ・抹茶づくりの伝統を守り、品質の高い商品を作っているんだね。
- ・お客さんのニーズに合わせた商品作りを心がけているんだね。
- ・トラックには英語が書かれた段ボールがたくさん積んであったよ。

(2) パンフレットやインターネットを使って調べよう②

- ・有名なパティシエと協力して抹茶を使ったスイーツなど新しい商品を作っているね。
- ・セントレアに西条園というお店を出しているよ。
- ・アメリカやドイツ、中国にも支店があるんだよ。

○「あいや」の工夫を明らかにしよう①（本時7／12）

- ・アメリカ、ドイツ、中国に支店をつくり、海外での売り上げを伸ばしているよ。
- ・海外には人がたくさんいるから、たくさん売れる。
- ・「あいや」の成長の秘密に習って、西尾の抹茶を広める方法を考えたいな。

伝統を大切にしながらも、時代のニーズに合った戦略をしているんだね。

「あいや」で学んだことを生かして、西尾の抹茶を広める方法を考えよう③

○あいやさんで調べたことをもとに、西尾の抹茶をもっと広めるためにはどうしたらいいか考えよう②

- ・世界に抹茶をもっと広めていくためには、それぞれの国に合った抹茶を作っていないといけないんだね。
- ・中学生の茶摘みなども守って行って、西尾市民が抹茶を大切にしようと思ってほしいね。

○自分たちが考えたことを西尾市青年会議所の人に提言しよう①

- ・もっと海外で宣伝や販売を行っていくのはどうかな。
- ・抹茶を飲む機会を増やすために、茶会を開くといいと思う。

これからも西尾の抹茶を大切にしていきたいね。

〈教師支援〉

- ・日本や海外での抹茶の使われている商品を集めたり、カフェなどのメニューを調べたりすることで、抹茶ブームが起きていることに気づかせる。
- ・「西尾の抹茶」、「宇治抹茶」と書かれている商品の数を比べることで、西尾の抹茶の知名度がまだ低いことに気づかせる。
- ・子どもたちが切実感をもって西尾の抹茶を守っていく方法はないかと考え、動き出せるように、抹茶の出荷量が1位じゃなくなったことを伝える。
- ・どこの県で抹茶が栽培されているか、どれくらい生産量があるかなどをつかむために、地図やグラフを使って確認する。
- ・茶業組合の人から、今後他県での抹茶の生産が増えていくことによって競争が厳しくなるということを伝えてもらうように打ち合わせをする。
- ・高品質な商品を作り続けるための努力や抹茶を作る工程、食品用の抹茶がどんな商品になりどこで販売されるのか学ぶために、工場見学に行く。
- ・「あいや」からゲストティーチャーを招き、海外に進出するための苦労や喜び、これから西尾の抹茶を世界中に広めるためにどうしたらよいかなどを語ってもらう。
- ・「あいや」が海外に進出している理由を考えることで、国内では宇治抹茶の知名度には勝てないことから世界で西尾の抹茶の知名度を上げていくことが今必要であることに気づかせる。
- ・「あいや」で学んだことをもとにして、自分たちの自慢の抹茶をもっと広めていきたいという思いがもてるように西尾市青年会議所の人を招く。

深
化

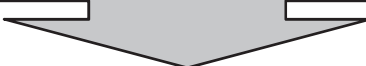
活
用

5 本時の学習

(1) 目 標

- ・友達の見聞やゲストティーチャーの話をもとに、なぜ「あいや」が海外に進出したのかについて考えを深める。

(2) 過 程

流れ	子 ども の 活 動	教師支援・評価
つかむ 5分	1 本時のめあてを確認する。 調べたことをもとに、「あいや」の工夫を明らかにしよう	・ゲストティーチャーの紹介を行う。
か か わ る 35分	2 「あいや」について調べたことを発表する。 伝統 ・御影石の茶臼を職人が手で掘っている。 ・茶臼の表面は内側に向かって傾斜が付いている。 ・茶臼は職人しか彫れない。 製造 ・1台の茶臼で1時間に40gしか製造できない。 ・抹茶製造室は湿度・温度が一定に保たれている。 ・消費者の好みに合わせてブレンドされている。 スイーツ ・パティシエのシェ・シバタさんにプロデュースしてもらった商品が人気。 ・いろいろなお菓子にも使われている。 ・抹茶ラテが海外で人気。 西条園カフェ ・セントレアに出店して、海外の人や他県の人に宣伝できる。 ・おしゃれなホームページやパンフレットが若い人たちにも人気だね。 海外 ・アメリカ・ドイツ・中国にも支店がある。 ・抹茶ラテなどがカフェで飲まれるなど、海外で抹茶ブーム。 ・海外では、化粧品などにも使われている。 ・高級スーパーでは抹茶味のお菓子などもたくさん売られている。  「あいや」はなぜ海外に進出していったのかな ・抹茶を世界中に広めたいから。 ・世界中で抹茶ブームが起きているから。 ↓ ・海外には人がたくさんいるから、たくさんの人に売れる。 ・買ってくれる人も多いからもうかる。 ・日本では売れない。 → 人口が減少していく。 → 宇治抹茶には知名度で勝てない。	・子どもたちに分かりやすいように、伝統、製造、スイーツ、西条園カフェ、海外など項目ごとに分けて板書する。 ・海外に進出するメリットに気づかせるために、海外に進出していったことについての意見がある程度出たところで、「なぜ海外に進出していったのか」という発問を投げかける。 ・「あいや」が海外に進出していった理由を考えることで、西尾の抹茶が抱えている問題を解決する方法の一つとして海外進出があることに気づかせる。 ・子どもたちが海外と取引するということはどういったことなのか実感するために、ゲストティーチャーから海外に進出するための苦労や喜び、抹茶を世界中に広めるために「あいや」が行っていることなど具体的に話してもらう。
ま と め る 5分	3 本時の授業の感想を書いて発表する。 ・「あいや」は伝統を大切にしながらも、世界中に抹茶を広めていることが分かった。 ・日本国内では宇治抹茶が有名だから、日本国名でももっと西尾の抹茶が広まってほしいと思った。 ・今、世界では抹茶ブームなので、西尾の抹茶が世界中に広まってほしいと思った。	・「あいや」の工場見学やゲストティーチャーから学んだこと、自分たちが今まで調べてきたことをもとに、西尾の抹茶を広めていく方法も考えられるとよいことを伝える。